

中高生向け起業家講師による出前授業
出前授業実施レポート(仙台市立仙台大志高校)

【概略】

- ・起業家講師による出前授業を仙台市立仙台大志高校で実施。
- ・塩釜市で地域共助型フリースクールを運営している、こどぶら株式会社の中川香苗さんが講演。
- ・キャリア教育に力を入れる仙台大志高校。今回の出前授業が生徒にとって自分の価値観や人生について考える機会に。



起業家とのリアルな出会いを作るため、出前授業を開催

2026年5月27日、仙台大志高等学校において、起業家講師による出前授業を実施しました。こどぶら株式会社の中川香苗さんをお招きし、「自分の声で生きる～遠回りしながら見つけた私の生き方～」と題して講話をいただきました。

仙台大志高校では近年、生徒1人ひとりに自らの進路や社会での在り方について考えてもらおうと、キャリア教育に力を入れています。2026年度は、「meet to REAL」と題し、社会で活躍する先輩

のお話をリアルに聞ける機会を作ることに取り組んでいます。

今回は、午後から夜間にかけて授業を受けるⅡ部の1～4年生を対象に出前講座が行われました。進路指導部長の長谷川先生は、「Ⅱ部の生徒にはこれまで対面での講話を作る機会をなかなか作れていませんでした。こどもの居場所づくりをしている中川さんのご活動は、本校の生徒たちにとっても身近に感じられ、ぜひ呼びたいと思いました」と話します。

「自分の軸」が見つかった原体験を紹介

今回講師を務めた中川香苗さんは、仙台市が主催する、仙台・東北の社会起業家の立ち上げと成長を後押しする創出プログラム「TOHOKU Social Impact Accelerator スタータープログラム」の2026年度採択者に選出されました。その後、プログラムを通じてご自身のビジネスプランを磨き上げ、2026年2月に開催された仙台・東北の社会起業家応援イベント「東北ソーシャルイノベーションサミット2026」でプレゼンを行い、大賞・共感賞をダブル受賞されました。

兵庫県の自然豊かな地域で育った中川さん。高校生や大学生の頃は、都会に憧れる一方、自分に自信が持てず、周囲と比較して悩むことも多かったといいます。



中川さんは、自身の価値観の原点について、大学生の頃に祖父を亡くした経験を挙げました。葬儀には多くの人々が訪れ、祖父が地域の中で多くの人に感謝されながら生きてきたことを実感したといいます。その経験から、「どれだけ稼ぐか」ではなく、「どれだけ人に感謝される生き方ができるか」が大切だと考えるようになりました。

また、自然豊かな地域で育ち、多世代との関わりの中で多くの人に支えられてきた経験から、「ありがとう」があふれる「お互い様」の輪を広げたいという想いを持つようになったと語りました。大学卒業後はIT企業に就職し、東京や仙台で働きながら結婚・出産を経験しました。子育てを通じて地域との関わりが増える中で、こどもの遊び場不足や孤立しやすい子育て環境など、地域が抱える課題を実感するようになりました。そこで市民団体「AsoVi-Va みやぎ」を立ち上げ、行政への提言活動やイベント開催などを通じて、子育て世代や子どもたちが抱える課題の解決に向けた活動を続けています。

そして、こどもたちが主体的に学び、社会とつながる新しい学び場を作ろうと、勤めていた会社を退職して起業し、それまでフリースクールが少なかった宮城県沿岸部（塩釜市）にフリースクールこどもぷらを開設したエピソードを紹介しました。

生徒自身が自分のキャリアを考える機会に



講演の最後に中川さんは、「私は遠回りしながら、自分がやりたいことを見つけられました。みなさんも正解はすぐ見つからなくても大丈夫。自分の声に耳を傾け、リアルな体験を大切にしてほしい」と生徒たちへメッセージを送りました。

生徒たちも中川さんの話が印象に残った様子で、授業後に中川さんのもとに駆け寄り、「とても楽しそうな場所だと思いました」、「今度スクールにぜひ行ってみたいです」と話す生徒も。

授業後のアンケートでも、「急いで答えを出そうとせずに、自分がやりたいことをじっくり考えてみたいと思った」「行動することの大切さを学んだ」「失敗しても諦めずに前へ進むことが大切だと感じた」といった声が寄せられ、自分自身の将来について深く考えるきっかけとなっていました。

長谷川先生は、「誰もがずっと成功しているわけではなく、失敗することもあります。大切なのは、そこからどう成長するかだと思います。今回の中川さんの講演を聴き、多くの生徒たちが様々な気づきを得ることができました。今後も多様な社会人と出会い、対話する機会をつくっていきたいと考えています」と話しました。